



## 40年続く清掃活動を、末永く継承していきたいですね。

仙台五城ライオンズクラブは、1963年11月に結成された奉仕活動団体です。メンバーが集まって清掃活動を始めたのは1979年。40年間受け継がれてきた秘訣はどこにあるのでしょうか。活動内容と共に、その秘訣も伺いました。

### できる人が、できる日に参加するようにしています。

**聞き手**：40年も続けていらっしゃるの、すごいことですね。

**松本さん**：私はこの会に入会して6年ほどなので、清掃活動を始めたばかりのころのことを、残されている記録をひもとき、調べてみました。それによりますと、地域に対する奉仕活動の一環として始めたようです。また、自分たちの会の存在や活動内容を知っていただいて、できれば仲間を増やしたいという思いもあったようですし、それはいまも変わっていません。

**聞き手**：そのような理由から、活動中は「仙台五城ライオンズクラブ」と書かれた看板を立てているのですね。

**菅野さん**：そうなんです。また、自分たちの身分を明らかにして活動した方が、周辺住民の方にも安心していただけるということから、看板を立てています。

**聞き手**：毎回、活動するエリアは決まっているのですか。

**松本さん**：青葉城大手門前の支倉常長像周辺や西公園、櫻岡大神宮周辺と決めています。秋はどこも落ち葉が多くなりますが、支倉常長像周辺は、夏場に雑草が勢良く伸びてくるので、夏は支倉常長像周辺の草刈りとごみ拾いが中心になります。一度に集まるメンバーは毎回15人前後で、朝6時半から7時ごろまで行のですが、これくらいの人数でやりますと、あっという間にきれいになるといった印象です。

**菅野さん**：私はこの清掃活動のリーダーと申すか、世話役をしているのですが、2、3人でやっていたら、一人の負担が大きくなってしまい、ここまで続かなかったかもしれないと感じました。毎回、まとまった人数で進めるから効率も良いですし、「きれいになった」という達成感も大きくなるような気がします。それが、この活動が長く続いている理由の一つだと思います。

**松本さん**：ただ、参加することが負担にならないように、「できる人が集まってやる」と決めているんです。用事があって参加できないときには、遠慮なく休めるようにしているので、プレッシャーを感じなくて良いというのも、長く続いている秘訣だと思います。

**聞き手**：道具の活用など、清掃活動を楽にするような工夫をしていることなどはありますか。

**菅野さん**：夏場は暑いですし、雑草もすぐに伸びますので、思い切って草刈り機を導入しました。準備や手入れなどに多少の時間は必要ですが、手で刈る労力を考えたら機械を使った方が断然、効率的です。便利な道具を使って、楽できるところは楽をする。それも長く続ける秘訣かもしれません。



2018～2019年度 会長  
**松本 卓司**さん (写真右)  
プロフィール  
福島県いわき市出身。  
趣味はゴルフ。

市民委員長  
**菅野 賢則**さん (写真左)  
プロフィール  
宮城県気仙沼市出身。  
趣味はキャンプ。



## うれしいのは、地域の方々にねぎらいの言葉をかけていただくこと。

**聞き手**：菅野さんに伺いますが、「お世話役」としてのご苦労などはありますか。

**菅野さん**：清掃活動で使用する道具類は、会のメンバーである櫻岡大神宮さんが保管してくれているんです。私はそこから清掃をする場所まで、道具を車で運ぶだけです、苦労という苦労はありません。

**聞き手**：落ちているごみが、変わってきていると感じることはありますか。

**松本さん**：世の中の流れなののでしょうか、最近はタバコの吸いがらが以前と比べて減ってきたように感じます。また、西公園はお花見など、人が集まる機会も多いのですが、ごみの量が増えるということも特にはないです。主催者の方々があと片付けも含め、きちんと管理しているのと、皆さんのマナーが向上しているのではないのでしょうか。

**菅野さん**：私は、この活動に参加してよかったと思うことがあります。それは日曜日を有意義に過ごすことができるようになったことです。早起きをして、清掃活動でいい汗を流し、帰宅してもまだ朝の7時半。以前はつい、ゴロゴロしてしまって、せっかくの日曜にうまく休めなかったこともあったのですが、清掃活動のおかげで時間の使い方がうまくなったと思います。休みの日を有意義に過ごしたい方にはお勧めです(笑)。

**聞き手**：活動のたびに写真を撮っていらっしゃるようですが、そちらを拝見しますと、お子さんも参加しているんですね。

**菅野さん**：そうなんです。メンバーのお子さんなのですが、小さいときからこのような活動に参加することで、ポイ捨てをしないのはもちろん、落ちていたごみを見たら、自然に拾うような大人になってくれると思います。そして、もう一つ、大人とのコミュニケーションをとるよい機会になっているようです。いまは自分の親や学校の先生以外の大人と話す機会が減っていますので、メンバーも安心して子どもさんを連れて来られるようですし、お子さんたちも、大人たちとおしゃべりしながら、楽しそうに参加しています。

**松本さん**：小さい子どもがいると、通りがかった方々も声をかけやすいのではないのでしょうか。「おはようございます」とあいさつをしてくれたり、「ご苦労さま」とねぎらいの言葉をかけてくださるんです。それが大人である私たちの励みにもなっています。

**聞き手**：清掃活動に関して、今後の抱負をお聞かせください。

**松本さん**：若いメンバーに入ってほしいですね。会自体の存続のためにも、清掃活動を続けるためにも、若いメンバーは必要です。そのための環境づくりをしていこうと思っています。

## 【仙台五城ライオンズクラブのごみ拾いスタイル】 清掃活動後は、ラジオ体操でリフレッシュ!疲れを残しません。

4月から11月の第一日曜日、朝6時30分から約30分間、会が所有する火ばさみやちりとりなどを手に、ごみ拾いを行っています。夏は雑草が生い茂る青葉城大手門前の支倉常長像周辺の草刈りが中心になります。清掃活動終了後は、参加者全員でラジオ体操を行い、身体の凝りをほぐして疲れを癒やします。11月最後の活動日は、1年のしめくりとして、ホテルでの朝食を楽しんでいるそうです。

